

経済・金融 フラッシュ

米9月ISM製造業指数が急落 ～急速な景気冷え込みを示唆

経済調査部門 主任研究員 土肥原 晋

TEL:03-3512-1835 E-mail: doihara@nli-research.co.jp

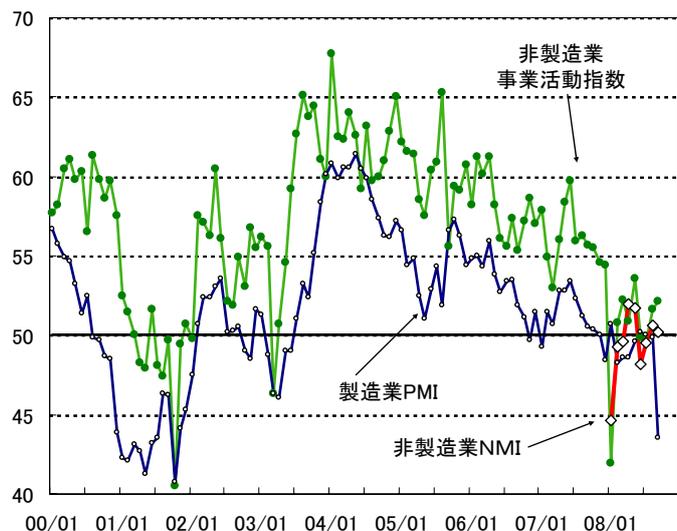
1、製造業指数が43.5に急低下の半面、非製造業指数は50.6と回復

企業のセンチメントを示すISM（米供給管理協会）指数は、9月製造業指数（PMI）が43.5と急低下、前月（49.9）、市場予想値（49.5）をともに大きく下回り、2ヵ月連続で製造業の拡大・縮小の分かれ目とされる50を下回った。また、9月水準は9.11テロ事件直後の2001年10月（40.8）以来の低水準となる。これまでの景気減速は、住宅市場とその影響を受けやすい個人消費を中心としたもので、製造業の落ち込みは比較的浅いとされていた。しかし、今回、製造業指数が、ストック調整で製造業の打撃が大きかった2001年リセッション時の水準に近づいたことにより、景気減速が製造業を取り込んだより広範なものとなってきたことが示されたと言えよう。もともと、ISMによると、PMIが示す経済全体の分かれ目は41.1であり、9月PMI（43.5）は、実質GDPの年率0.8%に対応するものだとしている。

一方、9月の非製造業指数（NMI：注）は50.2と8月（50.6）から0.4ポイントの低下、市場予想（50.0）を上回り2ヵ月連続で50台を維持した。また、昨年まで非製造業の景況感を示す指数とされていた事業活動指数は52.1と前月（51.6）から上昇、NMI同様2ヵ月連続で50台を維持した。事業活動指数は、1月に41.9とテロ事件直後の2001年10月（40.5）以来の低水準に落ち込んだが、2月以降50前後での推移を続けている。なお、価格指数も小幅の低下（72.9→70.0）に留まっている。（注：NMI(=Non-Manufacturing Index)は、本年1月より非製造業指数の総合指数として発表を開始。事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延の各指数の均等ウェイトで構成されている。）

以上のように、9月ISM指数は、製造業では50を大きく割り込む一方、非製造業では50を維持するなど、製造業指数の大幅下落に比し、非製造業指数の落ち着いた動きが対照的となっている。た

（図表1） ISM指数の推移（月別）



（資料） Institute for Supply Management、以下も同じ。

だし、製造業価格指数の大幅な下落に見られるように、原油価格下落や金融危機の後の動きについては、製造業が先行して影響を受けているとも考えられ、今後の動向が注目される。

(各指数の内訳)

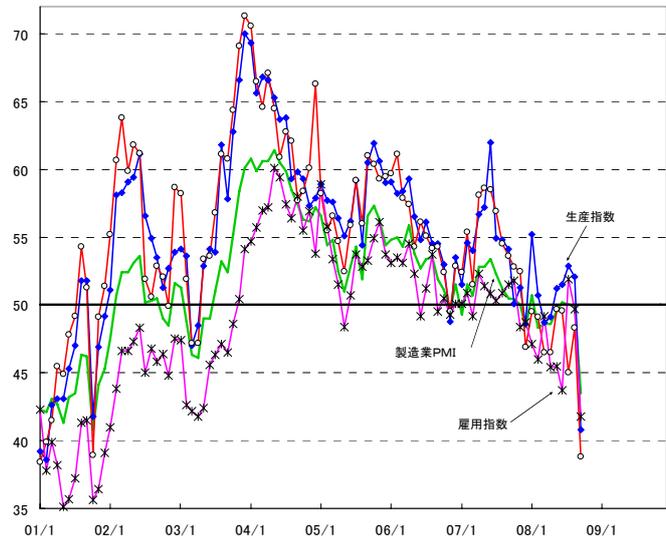
2、製造業各指数では、主要指数の下落が大きく、価格指数も急低下

ISM製造業指数の各指数のうち、PMIを構成する主要5指数（新規受注、生産、雇用、入荷遅延、在庫）では、入荷遅延を除きいずれも下落した。中でも、生産（前月比▲11.3ポイント）、新規受注（同▲9.5）、雇用（同▲7.9）、等の下落が大きく、生産指数は2001年2月（38.6）、新規受注は2001年1月（38.4）以来の低水準となる。

一方、上記以外の指数では、価格指数（前月比▲23.5ポイント）の下落が大きく、受注残の下落（同▲8.5）も目立った。また、輸出指数（同▲5.0）、輸入指数（同▲4.5）とも比較的大きな低下を見せた。

9月製造業指数では、PMIを構成する主要指数が軒並み大幅な下落を見せ、景況感の全面的な低下を示すものとなった。特に、受注指数は38.8と水準を落とし、受注残指数も急低下（43.5→35.0）するなど、景気先行きの不透明感の高まりを窺わせる。

(図表2) ISM製造業指数の内訳と推移（月別）

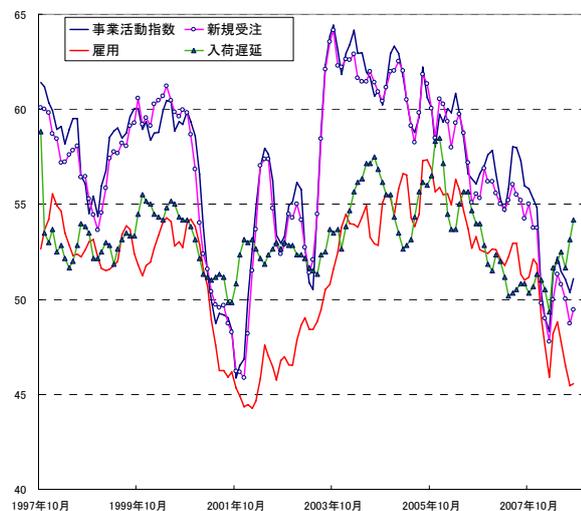


3、非製造業指数の内訳では、全般、小幅の動き

非製造業各指数の動向を見ると、前月からの動きが大きかった製造業に比べて安定的な動きを見せており、総合指数であるNMIを構成する主要4指数（事業活動、新規受注、雇用、入荷遅延）は、いずれも小幅の動きに留まった。また、8月に大きく下落した価格指数は、9月は70.0（前月72.9）と小幅の低下に留まり、製造業の価格指数（53.5）との水準の乖離は広がっている。その他の指数では、輸出受注指数が6.0ポイント上昇した一方、在庫指数の下落（▲8.0ポイント）が大きいのが目を引いた。

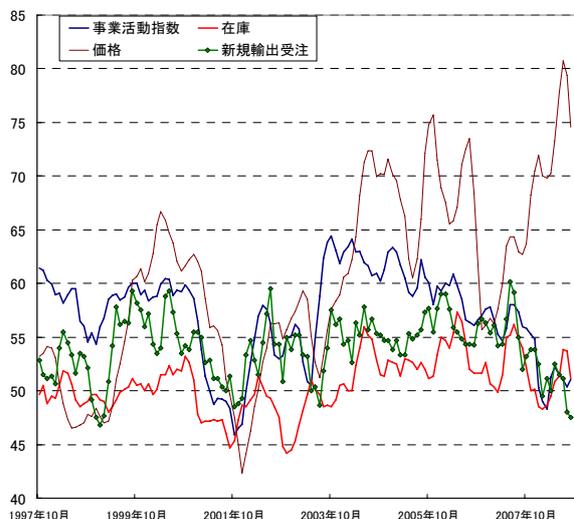
なお、雇用指数に関しては44.2（前月45.4）と下落、製造業同様に40台前半の低水準にある。雇用減を回答した業種は金融・保険、ヘルスケア、不動産、人材派遣、レストラン等、卸売・小売業、など10業種に昇るが、雇用増を回答したのは、運輸・倉庫、鉱業、建設、など6業種に留まる。今月発表された雇用統計とは、業種ごとの動きは必ずしも一致しないが、サービス業の雇用者数が減少幅を拡大した点では、ISM指数が示唆的な動きを見せたと言えよう。

(図表3) I S M非製造業指数の内訳 (その1)



注：3ヵ月移動平均

(図表4) I S M非製造業指数の内訳 (その2)



注：3ヵ月移動平均

(図表5) I S M指数製造業と非製造業指数の一覧

製造業指数											
	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	8→9月 変化幅
P M I	43.5	49.9	50.0	50.2	49.6	48.6	48.6	48.3	50.7	48.4	▲ 6.4
新規受注	38.8	48.3	45.0	49.6	49.7	46.5	46.5	49.1	49.5	46.9	▲ 9.5
生産	40.8	52.1	52.9	51.5	51.2	49.1	48.7	50.7	55.2	48.6	▲ 11.3
雇用	41.8	49.7	51.9	43.7	45.5	45.4	49.2	46.0	47.1	48.7	▲ 7.9
入荷遅延	52.5	50.3	55.1	55.1	53.7	54.0	53.6	50.1	52.8	52.6	▲ 2.2
在庫	43.4	49.3	45.0	51.2	48.0	48.1	44.9	45.4	49.1	45.4	▲ 5.9
顧客在庫	53.5	54.5	47.0	55.0	47.0	45.0	51.0	49.0	49.5	51.5	▲ 1.0
価格	53.5	77.0	88.5	91.5	87.0	84.5	83.5	75.5	76.0	68.0	▲ 23.5
受注残高	35.0	43.5	43.0	47.5	46.0	51.5	47.5	45.0	44.0	43.0	▲ 8.5
新規輸出受注	52.0	57.0	54.0	58.5	59.5	57.5	56.5	56.0	58.5	52.5	▲ 5.0
輸入	44.0	48.5	46.5	46.0	49.5	48.0	45.0	47.5	52.5	48.0	▲ 4.5

非製造業指数											
	9月	8月	7月	6月	5月	4月	3月	2月	1月	12月	8→9月 変化幅
N M I	50.2	50.6	49.5	48.2	51.7	52.0	49.6	49.3	44.6	N/A	▲ 0.4
事業活動	52.1	51.6	49.6	49.9	53.6	50.9	52.2	50.8	41.9	54.4	0.5
新規受注	50.8	49.7	47.9	48.6	53.6	50.1	50.2	49.6	43.5	53.9	1.1
雇用	44.2	45.4	47.1	43.8	48.7	50.8	46.9	46.9	43.9	51.8	▲ 1.2
入荷遅延	53.5	55.5	53.5	50.5	51.0	56.0	49.0	50.0	49.0	52.5	▲ 2.0
在庫	45.5	53.5	54.5	53.0	54.0	47.0	51.5	50.0	44.5	50.5	▲ 8.0
価格	70.0	72.9	80.8	84.5	77.0	72.1	70.8	67.9	70.7	71.5	▲ 2.9
受注残高	46.5	49.0	52.0	49.0	49.0	50.0	47.5	49.5	46.0	49.0	▲ 2.5
新規輸出受注	50.5	44.5	47.5	52.0	54.0	48.5	55.0	46.5	52.0	50.0	▲ 6.0
輸入	47.5	46.0	49.0	50.5	48.0	50.0	54.5	49.0	41.5	50.5	▲ 1.5
在庫センチメント	62.5	66.0	62.5	60.0	66.5	63.0	60.5	60.5	57.0	64.5	▲ 3.5

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。